

ビデオアノテーションシステム FishWatchrを用いたディスカッション練習における観察と振り返りの分析

山口昌也

(国立国語研究所)

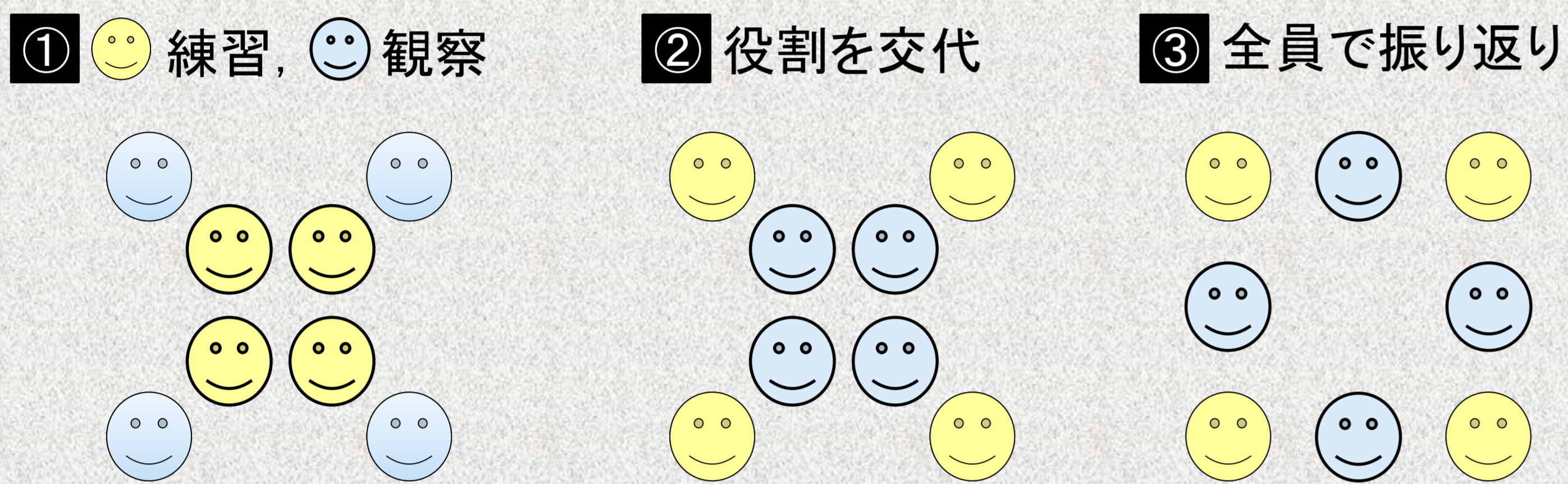
大塚裕子

(はこだて未来大学)

背景

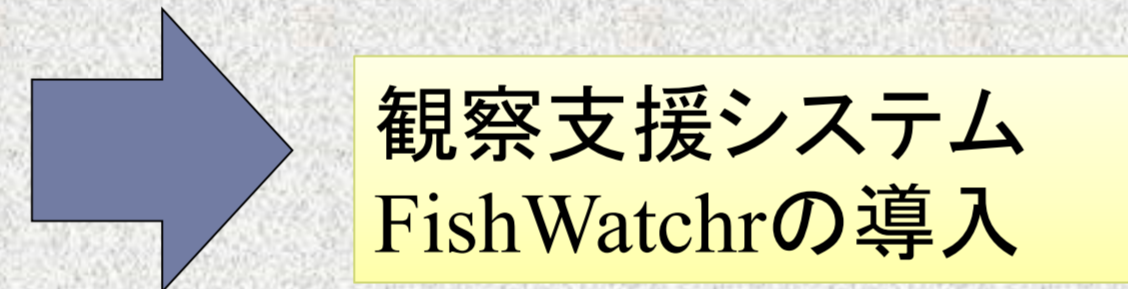
● 自律型対話プログラム

- 話し合い能力向上のためのトレーニングプログラム
- 習得目標
 - 聴く・問う・伝える技術
 - 自らを含めグループの問題に気づき、改善する能力
- フィッシュボウル(Fishbowl)を用いたディスカッション練習



● 問題点

- 問題1: 学習者にとって観察行為自体が難しく、振り返りの材料に値する気づきを得にくい
- 問題2: 振り返り時にお互いの気づいたことを話し合うだけでは、一過性の気づきになってしまう



FishWatchr を用いた話し合いトレーニング

- 選択教養科目「言語と社会」(15コマ, 90分)を集中講義で実施
- 大学1~3年生の32名

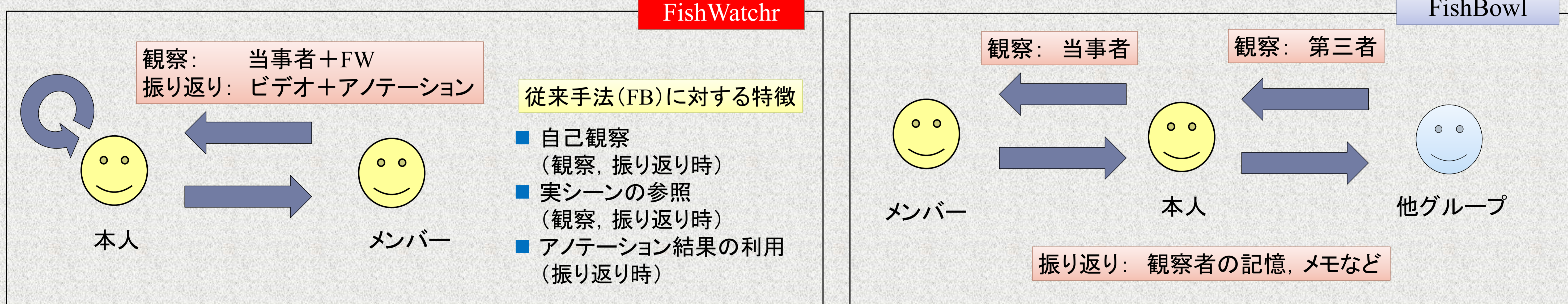
No.	コマ数	内容
1	1	ガイダンス
2	1	自己紹介エクササイズ
3	1	FBによるディスカッション実践
4	1	FWの説明と操作方法の確認
5	1	熟練者ディスカッションの観察訓練
6	2	FWを用いたディスカッション実践
7	1	傾聴(講義)とエクササイズ
8	1	意思決定するという(講義)
9	1	テーマ決めエクササイズ
10	2	FWを用いたディスカッション実践
11	3	問題解決のグループワークと発表

● FishWatchrを用いた実践



実践結果の分析

● 観察と振り返り方法の比較



● アンケートによる分析

- アンケートの概要
 - FBによるディスカッション実践に対する利点を挙げる (自由記述・複数回答可)
 - 79個のコメントが得られた
- 三つの特徴の観点で分類(79件中73件)

- アノテーション結果の利用 (33件)**
 - 「ここでみんながこう思っていたんだということがわかる」
 - 「みんなが良い悪いと思う点が共通しているかどうか一目でわかる」
- 自己観察 (23件)**
 - 「客観的な目線で自分たちのディスカッションを見ることができる」
 - 「自分の良いところ, 悪いところを認識できる」
- 実シーンの参照 (17件)**
 - 「何度でも好きなタイミングで再生できる」
 - 「映像という客観的な証拠があるので, 振り返りに説得力が出る」

● アノテーション結果の分析

- アノテーション
 - 評価: 「良い」「悪い」「その他」
 - 対象: 「自分」「他人」「不特定」
 - 自由記述コメント
- 結果
 - 総数612個
 - 一人当たり19.1個
 - 1グループあたり76.5個

